

・楽しく ・見て ・学ぶ

MUSEUM NEWS

徳島県立博物館

No.80

博物館ニュース



あたいもんつきはなかわもんつしがはなぞめこそで
葵紋付花重文辻ヶ花染小袖（複製）

写真は、徳川美術館に所蔵されている徳川家康が用いた「葵紋付花重文辻ヶ花染小袖」（国指定重要文化財）を再現したものです。再現にあたっては、^{あいすくも}藍染の仕事を佐藤昭人氏、^{なまはぞめ}生葉染を佐藤好昭氏、^{あいぞめ}藍染を矢野和仁氏と、徳島の^{あいし}藍師、^{あいぞめし}藍染師の方々が分担しました。全国に名をはせた徳島の^{れんめん}藍づくりの技が、現在にも連綿と受け継がれていることを示す資料の一つだと思えます。

企画展「藍染めの表象」では、この資料を含む日本各地の様々な藍染織品を展示するとともに、徳島の藍の生産と変遷について紹介します。

（民俗担当：庄武憲子）



明治維新と徳島城

— 守住貫魚の『二行日誌』から —

大橋俊雄

幕末に徳島藩で絵師をつとめた、^{もりずみつらな} 守住貫魚という人がいます。彼は 59 歳のときに明治維新をむかえ、明治 14 年 (1881) に大阪に転居するまで、旧城下の東富田にいました。

貫魚は『二行日誌』1冊を残しています (図1)。この日誌は、彼が身近で見聞した事件や世相を、短冊形に切った紙片1枚ずつに書き留め、年代別に張り込んだ冊子です。短冊形は、表題を書く欄の下に、2行分の^{けいせん} 罫線を引いた自家製です (図2)。記事は、明治元年から同 22 年まで残されています。

この日誌から、かつて藩主が住んでいた徳島城 (現徳島中央公園・国史跡) に触れた記事を、いくつか拾ってみましょう。徳島城は、維新後 10 年余をかけて人々の憩いの^{いこ} 場所に変わりました。貫魚にとっても、かつての勤めの日々を思い起こさせる所でした。

何が書いてあるのかな？



図1 『二行日誌』表紙



図2 同 本文と短冊形 (左側)

●明治2年 公廨

七月旧城総政局御玄関黒門菊御幕掛銃卒御門左右／炮持守ル鷲御門番人廃止士族借才高仕名札内外カケル

同年6月に徳島では^{ほんせきほうかん} 版籍奉還があり、あらためて明治政府により藩が設置され、城の御殿が^{ほんかい} 藩庁 (藩庁) になりました。この出来事が、日誌では、旧城が総政局になったことや、大手にあたる黒門に菊紋の幕が下がり、番人でなく銃卒が立ったことなどで表現されています。後半部は文意をはっきりつかめません。誤読もあると思いますので、原文の図版をあげておきます (図3)。

鷲御門ヨリ引舟通抜

鷲御門より引舟御門番人ヲ止諸人通行解放龍王宮社屋損／赤金瓦銅獅子狛犬銅燈籠自造形有又スミトラレタリ

鷲門は、大手門の外側にありました。この門から^{ひきふね} 曳舟門までの通行が自由になりました。

途中には藩主が^{まつ} 祀っていた^{りゅうおうぐう} 龍王宮がありましたが、社殿は壊れ、赤金の瓦・銅の獅子狛犬など、金目のものは盗まれました (図3)。

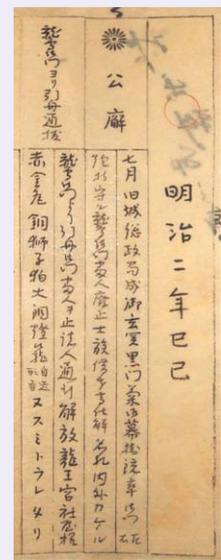


図3 同 「公廨」と「鷲御門ヨリ引舟通抜」

●明治3年

明治三年午六月十六日
旧諸々番処止

寺島口福島口助任口三門臺番拂戸タテル也／
番二而ナケレ共旧城内能舞臺西国名物賣拂となる也

城下の要所にかかる橋の番所が廃止されましたが、あわせて城内の能舞台も売り物になった事実を伝えています。この能舞台は西国名物といわれるほど見事だったそうです。旧城の能舞台がどのような施設だったのか興味深いですが、今日ではあまり資料がありません。

●明治4年

明治四年春
諸局廣机勤成

軍事掛諸役共大机売ツニ四人位面々居スニ掛
リ弁當モ此上也／地口今の御役は皆腰かけの勤ぢや
あ度々役カへ腰ノスハラヌヲ云

これは城内での仕事場を言っています。文中「居ス」とあるのはイスすなわち腰かけです。畳の上に坐るのでなく、4人がけの大机とイスが使われ、そこで弁当も食べました。その様子は当時珍しかったらしく、さっそく皮肉られたことがわかります。

●明治5年

明治五申四月晦日
旧城博覧會

松野宮司ト見物行鷲門外博覧書フラフ建ル／
鶴間松間鷲間旧小書院城山ニ珍物置付テアリ

明治時代には、欧化や殖産興業^{しよくさんこうぎょう}を目的として、各地で博覧會が開かれました。徳島でもこの年に旧城を会場にして催されました。会期は8月からともいわれていて、表題に四月晦日とあるのは、あるいは一般公開に先立っての見学かも知れません。御殿の各部屋や城山に、色々な珍しい物が展示されました(図4)。

●明治8年

明治八年六月
旧城拂下ケ

山上天守太鼓櫓十八間立水始諸櫓惣而土石之外
建物／壺巻生物ニセス生物ニテ八取打大数懸ルヲ
見込大二利得也

当時、徳島城は陸軍省が所管していましたが、石垣や堀を残して、天守、太鼓櫓などの建物が取り壊されました。文中の「生物」は意味がよくわからず、生け花を表す「いけもの」とでも解しておきます。建物を飾りに残しておく費用がかさむので、壊して得だったということでしょうか(図5)。

●明治10年

徳島旧城遊覽地

上巳節句是迄大瀧山又汐干津田浦辺船ニテ遊
シモ城山登夕方マテ／遊シ者天守之邊より色々
ハケ者出アハテニケルト重箱コウモリ傘ヲ覆モノヲラ
レシ者多シト云

3月3日の節句の日などに、城下の人たちは弁当をもって海や山に出かけました。かつては眉山の大瀧山や津田浦に行きましたが、やがて旧城の城山に登るようになりました。夕方までいると、かつて天守があったあたりで化け物にあうと噂されました。

●明治12年

旧城内風船上ル

四月六日見費貳銭其形ラツキヨウツケニ、ニ
タリ／ヨウ二十間程上ル子供壱人ノセル、キ
ゼツシテイロナシ云

見料をとって気球が上げられました。形は漬け物のラッキョウのようでした。子供が1人乗りましたが、上空がよほど怖かったのか、かわいそうに気絶してしまいました。

(美術工芸担当)



図4 同「旧城博覧會」

図5 同「旧城拂下ケ」





文化の森総合公園開園 20 周年記念事業
文化立県とくしま推進会議 阿波藍の魅力発信協賛事業

企画展
「藍染めの表象」

徳島は、江戸時代後期から明治期にかけて染料「藍」の産地として全国に名をはせました。また、日本の多くの人々が、藍を用いて様々な模様の布を生み出し、暮らしの中で愛用してきました。この企画展では、県立博物館が収集してきた全国各地の特徴的な藍染め製品を展示し、長く培われてきた藍染めの多様性を紹介します。併せて、各地で花開いた藍染めに、徳島の藍が欠かせないものであったことを振り返りたいと思います。

●会期

平成22年10月5日(火)～11月7日(日)

* 休館日

10月12日(火)、10月18・25日(月)、
11月1日(月)

●会場 徳島県立博物館企画展示室(1階)

●観覧料

一般 200 円、高校・大学生 100 円、
小・中学生 50 円

* 20 名以上の団体は 2 割引

* 高齢者(65 歳以上)及び
障害者の方は半額

* 土・日曜日、祝日、
秋期休業期間中は
小・中学生及び高校生無料

* 学校教育による利用は無料

●関連行事

(1) 記念講演会(参加無料)

①日時 平成22年10月31日(日)
13 時 30 分～15 時

②会場 文化の森イベントホール

③講師・演題

高橋啓氏(鳴門教育大学名誉教授)
「阿波藍の生産と流通の歴史」

(2) 学芸員による展示解説(観覧料が必要)

①日時 平成22年10月10日(日)
13 時 30 分～14 時 30 分



もめんじ あいこい たきのぼ すきもの
木綿地藍鯉の瀧登り図着物
(産地: 愛知県有松)



まかもん まつ おきなもんようがすり ふとんじ
幾何紋と松に翁紋様緋布団地(部分)
(産地: 九州)

●構成とおもな展示資料

(1) 藍生産の変遷

- ①現在の藍生産
- ②阿波藍の変遷
- ③阿波藍の全国展開

(2) 藍染めの表象

- ①絹と藍
- ②絞り
- ③筒描
- ④緋
- ⑤型染め、縞、
特別な衣装
- ⑥布への愛着

(3) 琉球藍の染織



藍染めふるしき(部分)
(使用地: 徳島県那賀郡)



あさじ ほたんからくさもんおおよぎ
麻地牡丹唐草紋大夜着
(産地: 岩手県盛岡)

軌跡 — 継続と蓄積 —

今年、文化の森総合公園は開園 20 周年を迎えました。それを記念して、文化の森 5 館の 20 年間の活動と様々な資料や情報の蓄積を振り返ります。

- 会 期 2010年10月23日(土)～11月23日(火・祝)
- 会 場 多目的活動室および近代美術館ギャラリー
- 入 場 料 無料
- 展示内容

記憶のコレクション

文化の森開園 10 周年 (2000 年) を記念して、県民の皆さんから資料を募集してつくったタイムカプセルを開封・公開します。また開園 15 周年 (2005 年) に際して募集した「思い出のランドマーク」の写真をあわせて展示します。

文化の森の誕生

明治時代における徳島県内の文化施設の誕生から、文化の森の開園までの歴史をたどります。



1959 年に開館した
徳島県博物館

文化の森クロニクル

文化の森 5 館 (図書館、博物館、近代美術館、文書館、21 世紀館) がこの 20 年間に行ってきた様々な事業や収集した資料・作品を振り返ります。



開園 10 周年記念「世紀末大博覧会」
「ゴジラは語る」コーナー



平成 10 年度企画展 ウロコを持った昆虫たち
— チョウとガー



しろいとんどく そく
白糸威具足



イグアノドン科の歯化石
1994 年に勝浦町立川から発見された
草食恐竜のイグアノドン科の歯化石。四
国から発見された唯一の恐竜化石です。



[20周年記念行事] 文化の森 大秋祭り!!

- 期 日 2010年11月23日(火・祝)
- 会 場 文化の森 6 館およびシンボル広場
- 博物館のおもな行事
文化の森ウォークラリー (6 館共催)・体験コーナー (レプリカづくり、標本にさわってみよう 他)



文化の森開園 10 周年記念
タイムカプセル



コンピュータゲーム機



厚底サンダル



徳島市新町橋
1956 年 2 月撮影
片山圭右氏提供
「思い出のランドマーク」から

タイムカプセル
収納品の例

香川県自然記念物の「木戸の馬蹄石」

香川県まんのう町（旧琴南町）には、「木戸の馬蹄石」とよばれる香川県の自然記念物にも指定されている所があります。川の両岸に露出している地層の表面には、灰色の長細い楕円状の筋がたくさんあり、その名の通り馬の蹄の跡のようです（図1）。「木戸の馬蹄石」には伝説があり、昔、源平合戦の折、源義経が源氏の本隊を率いて、徳島からやってきて、この土地で馬をとめて、しばらく休憩をとった時に、岩に馬の蹄の跡がついたと言われています。そのような伝説がありますが、実は馬の蹄に見える筋の正体は、二枚貝であるカキの化石なのです。カキ化石は、主に砂岩や礫岩に含まれ、殻が重なり合うぐらい密集し、数枚の層をなしています（図2）。カキ化石を含む砂岩や礫岩は、和泉層群と呼ばれる白亜紀後期（約8000万～7000万年前）の地層です。

一概にカキと言ってもその種類は多く、食用とされるマガキ類やイワガキ類からその他、食用にされない中型や小型の種類のものまで多種多様です。この「木戸の馬蹄石」のカキ化石は *Crassostrea* 属（マガキの仲間）に含まれます（図3）。*Crassostrea* 属は、現在でも生存しており、初期のグループは、ジュラ紀後期から白亜紀前期（約1億5000万年～1億4000万年前）の地層からも産出しています。生息場所はその当時から干潟や内湾のような汽水域（淡水と海水が混ざる場所）に限られており、海底に突き刺さるように垂直に伸びる生息姿勢をとっています。



図1 地層中に灰色の細長い楕円形の筋がみられる

「木戸の馬蹄石」のカキ化石の殻の多くはバラバラにならず、二枚の殻を残しており、また一部は、生きていた当時の生息姿勢を残したまま化石になっています。このことから、カキ化石の密集層がある場所は、当時、一時的に現在の干潟～内湾のような環境であり、そこに大規模なカキ礁が広がっていたと推定されています（吉川ほか、2009）。

（地学担当：辻野泰之）

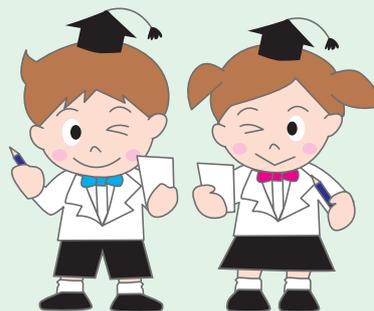
参考文献：吉川ほか、2009：上部白亜系和泉層群北縁相のカキ化石密集層、日本古生物学会2009年年会講演予稿集、p.38.



図2 砂岩中にみられるカキ化石の密集層



図3 マガキの仲間の *Crassostrea ariakensis*（長崎県南有馬町の第四紀層より産出したもの）



カキの化石
だったんだ!

速報 博物館の常設展がリフレッシュしました。

今年には文化の森が開園してから20周年の節目の年です。これまでにとてもたくさんの方々にご利用いただいている常設展ですが、長い時間が経過したためにあちらこちら傷んだり、学問の進歩によって内容が古くなって来たりしている部分があるのが否めません。そこで博物館では、この節目の年に“常設展リフレッシュ事業”を立ち上げ、部分的に展示を新しくしました！まだまだリフレッシュ事業は進行中ですが、すでに変更した部分のいくつかを皆さんにご紹介していきます！

その1 恐竜の系統樹が変わった！

爬虫類・哺乳類・鳥類などの系統研究は、この10数年間のあいだにとても大きな進歩がありました。博物館ができた頃には、鳥は恐竜とは別の系統のものと言われていましたが、いまでは鳥は恐竜の一部のグループから進化したとする見方が普通となっています。そこで、壁の系統樹が大変身しました。また初めて嘴を持ったとても原始的な鳥“孔子鳥(図1)”がお目見えしました。



図1 孔子鳥の化石

その2 化石資料がより充実！

開館当初は資料が少なかった新生代の化石資料。開館後はコレクターなどからの寄贈も多く、資料が充実してきました。そこでこれらの資料を有効に展示できるように化石のコーナーにケースを増設しました。ここではホオジロザメの歯やコンボウカニモリ類似種など新しい化石を見ることができます(図2)。



図2 ホオジロザメの歯の化石

その3 人類の最古の足跡が登場！

人類の進化史に関する分野は、とくに著しく研究が進んでいます。どのようにして人類が進化してきたのかはとても興味深いですね？このコーナーでは、実際に約360万年前の初期の人類が歩いた足跡のレプリカ(図3)をご覧ください。



図3 人類最古の足跡(複製)の一部

おもしろいものが
ふえたんだね。



その4 近世美術のコーナーを設置！

徳島に関連する江戸時代の美術品(おもに絵画)を専門に展示するコーナー(図4)を新設しました。これによって皆さんにもっと身近に徳島の美術に触れていただけるようになりました。



図4 新設された近世美術のコーナー

新しい発見が
まっているよ！

その5 近代部落史のコーナーを新設！

博物館では、開館以来部落史に関連する展示を積み重ね、資料を蓄積してきました。そこで、これらの資料をもとに、同和問題について考える助けとなるよう、新たなコーナー(図5)を設置しました。



図5 新設された近代部落史のコーナー



以上、これまでに行われた“博物館常設展リフレッシュ事業”の一部をご紹介しました。この他にも小さな展示替えがまだまだあちこちにあります。リフレッシュした博物館でどこが変わったか探してみましょ！ (植物担当：茨木靖)

10月から12月までの博物館普及行事

シリーズ名	行事名	実施日	実施時間	申込	対象(定員)	備考
歴史体験	ベーゴマをまわしてみよう	12月 5日(日)	13:30~16:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円 (大学生・一般)
歴史散歩	伊島を歩こう	10月10日(日)	8:00~15:45	要	小学生から一般(20)	現地集合
	一宮城を歩こう	12月 5日(日)	10:00~12:00	要	小学校高学年以上(20)	現地集合
野外自然かんさつ	河口の生きもの	10月 9日(土)	11:00~13:00	要	小学生から一般(60)	現地集合
	アサギマダラを探そう	10月11日(月)	10:00~15:00	要	小学生から一般(15)	現地集合
	那賀川上流の地層見学	10月17日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(25)	現地集合
室内実習	秋の野草かんさつ	10月24日(日)	13:30~16:30	要	小学生から一般(20)	
	木の葉化石の発掘体験	11月28日(日)	13:30~15:00	要	小学生から一般(30)	材料費100円 (大学生・一般)
	古代文様のミニ土版をつくろう	12月12日(日)	10:00~12:00	要	小学生から一般(30)	
みどりの工作隊	どんぐりごまとウツギの笛を作ろう	11月14日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(36)	
	リースをつくろう	12月19日(日)	13:00~16:00	要	小学生から一般(30)	
企画展関連行事	企画展「藍染めの表象」展示解説	10月10日(日)	13:30~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
	企画展記念講演会「阿波藍の生産と流通の歴史」	10月31日(日)	13:30~15:00	不要	小学生から一般(300)	文化の森イベントホール
部門展示関連行事	部門展示「国会議事堂に使われた県内産石材・鳴門海峡海底産の化石」展示解説	11月14日(日)	14:00~14:30	不要	小学生から一般	観覧料必要
文化の森開園20周年記念	文化の森 大秋祭り!!	11月23日(火)	9:30~17:00	不要	小学生から一般	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。
◎企画展の展示解説は企画展観覧料が、部門展示の展示解説は常設展観覧料がそれぞれ必要です(高校生以下は無料)。

あなたも参加してみませんか



白亜紀の地層見学
(勝浦町)



普及行事の様子だよ。
博物館には楽しい催し物がいっぱい!!
子どもたちも、大人も楽しく見て聞いてふれて学べます。

☆博物館友の会に入会しませんか!☆



10月以降に入会の方は、年会費の半額で、来年の3月まで会員としての特典(常設展・企画展無料観覧等)を受けられます。

友の会行事
「地引網」

- 半年会員の会費は、個人会員2,000円のところ1,000円、家族会員3,000円のところ1,500円です。
- 入会の方法、特典、会費、友の会行事等につきましては、友の会入会案内をご覧ください。友の会事務局にお問い合わせください。
- 徳島県立博物館友の会事務局
電話 088-668-3636 FAX 088-668-7197

普及行事のお申し込みについて

- ◎1枚の往復はがきには、1行事だけにしてください。
- ◎行事日の1カ月前から10日前までに必着で右記までお申し込みください。
- ◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
- ◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
- ◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

〈往信の表面〉	〈返信の裏面〉	〈返信の表面〉	〈往信の裏面〉
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館 普及課	何も書かないでください	50 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の行事名 2.参加希望者全員名(学年) 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館 普及課へ (電話 088 - 668 - 3636)